

和田州生（わだくにょ）

（公社）日本写真家協会会員。市川写真家協会会員。島人旅人と論島代表。

1943年茨城県日立市に生まれる。1964～1966年日本大学芸術学部写真学科の卒業制作のため与論島をたびたび訪れ卒業制作を完成、その間に町役場の協力を得て赤崎鍾乳洞を芸術学部の仲間4名とで発見、調査する。1966年日本大学芸術学部写真学科卒業。同年春東京・銀座のみゆき画廊にて「最南端の島・与論島」和田州生写真展開催、新聞等取り上げられ、沢山の人に見ていただく。その後、1966年8月電波新聞社特派員として、ドイツ・ミュンヘンに駐在。ヨーロッパ中心に取材、写真と記事を発信。1967年9月新聞社で働く一方で伝統あるバイエルン州立ミュンヘン写真大学マイスターコース入学・1968年7月卒業。入学にあたり与論島で撮影した写真が評価され日本人として初めて入学が許可された。マイスターコース卒業制作展のポスターに私の作品が採用された。1969年帰国後和田州生写真研究所を設立。写真を中心に広告制作活動。1971年4月、再びドイツ・フランクフルトに日本の広告代理店駐在所長として赴任。日本企業の広告宣伝を担当。1973年（株）スタジオ・ニッポンを設立。クリエイティブ・ディレクター、写真家として、広告、出版、商品企画等を行う一方、絵本や玩具制作に子供教育に関する作品に力を入れた。与論島で、感動したお墓との出会いがもとで、ライフワークとしてヨーロッパのお墓を撮影することと、壁文化の再発見をめざし、家庭に写真が飾られる運動を展開している。

2008年6月より与論町東区麦屋に滞在し、島の行事や島人の笑顔を撮影している。

主な個展：みゆき画廊「最南端の島・与論島」。銀鈴画廊「女」。

東銀ギャラリー「いろいろ」。スペースK「愛の墓」。

ハヶ岳美術館ソサエティ「愛の墓」。石の美術館「愛の墓」。

砂美地来館「懐かしい与論の風景」。

市川市芳澤ガーデンギャラリー「笑顔が似合う与論島」。

主な出版物：人気現代絵師による「今様羽子板絵競」。

「風還元」大平和正と三人の写真家。「Der Friedhof 愛の墓」。

与論島情景「海よ人よ 人よ海よ」。

その他：1965年与論島・赤崎鍾乳洞を発見。現在観光施設として利用中。

2004年与論パナウル王国より観光大使に任命される。